

令和7年度 第2回知立市図書館協議会 議事録

日時・場所

令和8年2月6日（金） 午後2時～午後3時45分
知立市図書館2階 視聴覚室

出席者

委員：高木 秀彰、山口 久実子、橘 玲子、近藤 博子、加古 美江子、豊田 一代、
鈴木 加代子、高松 宏樹（敬称略）
事務局：宇野教育長、市川教育部長、河合文化課長、野畑係長、新庄主事、鈴木主事補

1. 開会

あいさつ 教育長、会長

2. 新任委員紹介

新任委員の紹介

3. 協議事項

事務局：それでは議事に入ります。ここからの進行につきましては、近藤会長にお願いいたします。

(1) 令和7年度の主な事業および利用状況について（報告）

（事務局から説明）

会 長：事務局から説明が終わりました。何か質問はございませんか。

委 員：資料1-2中、「ユニークユーザー」について理解できなかったのですが、もう一度ご説明いただけますか。

事務局：ユニークユーザーとは、同一人が同じ月に何回借りても利用数は「1」とカウントする方法です。重複して人数がカウントされない、実利用者数です。

会 長：その他ございますか。

質問・ご意見等がないようですので、協議事項 1、令和 7 年度の主な事業及び利用状況については以上とします。

続きまして、(2) 令和 8 年度の図書館事業計画（案）について事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

会 長：事務局から説明が終わりました。何か質問はございませんか。

せっかくお集まりいただいておりますので、お気づきの点や改善したい点、心に思っていることなど何でも結構ですので、一人ずつご意見を言っていただきたいと思います。それでは、順番をお願いします。

委 員：私は市 P 連の代表として参加していますので、親の立場から、本とこどもの関係についてお話しします。

今のこどもたちはゲームや TikTok、YouTube などがあり、本を読む時間がないのだと思います。私は中 2 と高 2 の息子がいますが、中 2 の子は全く本を読みません。高 2 の子は少し読みます。本を読まないと何が起ころかという、語彙が圧倒的に少なくなります。中 2 として当然知っていてよいような言葉を知らず、ニュースに出てきても分からないのです。これは何とかしなければと思い、本を読ませたいと考えています。

上の子が本を読むようになったのは、私が面白い本を紹介して熱く語ったところ、その本を読んでもくれたことがきっかけです。その本は SF で、そこから SF にハマってどんどん読むようになりました。結果として語彙も増えたと思います。

下の子はどうしようかと思い、まず漫画から読ませようと考えました。

最初に『NARUTO』を読ませ、次に少し難しいものとして漫画の『チ。-地球の運動について-』を読ませました。評価も高く、本人も面白いと読んでいたのですが、やはり途中で止まってしまいました。何とか継続して読ませたいと思っています。上の子は私が熱く語ったことで読んでくれたので、学校で先生が生徒の前で自身の好きな本を語っていただくと、2~3 人は食いついてくると思います。

委 員：私は普段児童センターで働いております。児童センターの本は古いものが多く、予算も余裕がないため買い替えが難しい状況です。

児童センターに来るこどもは漫画を読む子が多く、漫画を目当てに来てくれる面もあります。

そこで私は漫画の最新作を取り入れ、遊びの場でありながらも、少しでも読書に触

れてもらえるようにしています。

また、季節に合わせて本を揃えるなどしつつ、なるべく新しい本を目の届く位置に置き、手に取ってもらえるように工夫しています。

図書館にも時々行きますが、最新作というより、映画化されたものなど皆に評判の良い本を選んで読むようにしています。本に対して「ちょっと違った」ではなく、「面白かった」という気持ちを持ってもらいたいので、こどもたちにも、知らない本より「これ映画でやっていたよね」など、入りやすいものを前面に出していきたいと思っております。

委員：こどもは身近に本があれば目にする機会が増えますし、本に親しむ気持ちも深くなると思います。

本会議の趣旨とずれるかもしれませんが、知立市内にこども食堂が何か所かあると思います。私は以前、谷田の弘願坊というお寺の「ののさま食堂」へ行ったことがあります。そこではボランティアの方が絵本の読み聞かせをしたり、ゲームの相手をするなどいろいろな活動をしていました。ご飯を食べに来たこどもや保護者が食事だけで終わらず、その場で楽しんで時間を過ごして帰る仕組みになっていました。

読み聞かせをする方はご自身で「面白そうだ」と思った本を持って行かれるのだと思いますが、もし可能なら、図書館の除籍本を「ご自由にお持ち帰りください」という形でそうした場所に置けないでしょうか。こども食堂に来た子が何気なく手に取るかもしれません。そこで気になった続きや関連本が図書館にあると分かれば、図書館利用につながるきっかけにもなると思います。

自分から図書館に借りに行くのも素敵ですが、今のこどもは忙しいので、なるべく身近に置いておくのも一つの手だと思いました。

事務局：以前、小学校や中学校では読書の時間などがありましたが、基本的にはこどもも大人も、主体的に「読みたい」と思わないと読まないのだろうと最近感じています。

背景には、今は情報が非常に多く、何もしなくても選べる状況があると思います。その中でゲームなどが優先されることもあるでしょう。だからこそ、物心つく頃から読み聞かせをして、絵本や紙芝居が楽しいと感じる体験をつくることが大事だと思います。小学生のうちに関心のあることから入るしかないのかもしれませんが。映画が好きなら原作を読んでみる、スポーツが好きならスポーツに関連した本を用意する、といった具合です。

そうして「読んでよかった」という実感が持てれば、自分で探していく子が育っていくと思います。今は情報が多いため、こどもが自分で見つける機会をどう作っていくかに視点を当てる必要があると感じています。

事務局：資料 1-3「1 年間の上位 100 作品」を見たところ、シリーズものが非常に多いと感じました。数えてみると「ゆるゆるシリーズ」「名探偵コナンシリーズ」「しずくちゃんシリーズ」だけで 73 作品あり、7 割以上を占めていました。おそらく小学生かそれ以下の子たちの利用が中心だと思います。

1 冊が年間 1,300 回貸し出されているということは、紙の本ではなかなか起こりにくい数字です。電子図書が導入されたことで、読書というより「見る」だけかもしれませんが、目にする機会が増え、幼少期に本に触れる経験が増えたことを実感しました。シリーズ本は 1 冊読むと次が読みたくなるので、電子の仕組みとも相性がよいと思います。

また、時代として、紙の本よりも目につきやすく、いつでも読めてしまうという特徴があります。今後、読書に親しむこどもが増えるのではないかと希望を持っています。

別の話ですが、最近本屋に行った際、20 年前にこどもを育てた頃と児童書の様子が違うと感じました。以前は中身が飛び出すしかけ絵本などで興味を引いていましたが、今は色彩やキラキラした装丁など、目に入る情報の工夫が増えており、こどもの興味を引く形態が大きく変わったと思います。

図書館でも、最初に手に取るきっかけになる作品選びと、それを前面に出してこどもの目に入る場所に置く工夫を作っていきたいと感じました。

事務局：まず「本を読め」と言っても、入口がないと難しいのだと思います。

主観ですが、昔で言えば『ハリー・ポッター』のように本から流行して実写化された例もあります。一方で、漫画やテレビドラマやアニメでストーリーを知っているものを本で読み直し、イメージを広げていくという、逆の発想もあり得るのではないかと思います。

事務局：表紙が硬い本は手に取られにくいのではないかと感じています。資料購入の際は専門職である司書が選書していますが、司書の視点とは別に、表紙や説明文から「これなら手に取ってもらえるか」といった観点で選んでみるのもいいのではないかと感じています。

最初のハードルは「手に取ってもらうこと」だと感じますので、短い文章が集まったものや、表紙がきれいな本、絵本なども含め、素人目線の工夫も司書に相談しながら進めたいです。図書館を楽しい空間にできるよう、引き続き取り組んでいきます。

事務局：体験談になりますが、私は小学生の頃からスマホを持たせてもらっていました。

学校ではスマホが使えないため、クラスに置いてある本を読んだり、両親に図書館に連れて行ってもらったりするなど、読書を楽しんでいました。

しかし、中学校に上がったタイミングで身の回りから本がなくなり、休み時間もスマホを触るようになった結果、中学校から就職するまで全く本を読まない生活になりました。

図書館に配属になり、身の回りに常に本があると、最近話題の本が目に入り「読んでみよう」と思えるようになります。実際、この1年で本をよく読むようになりました。常に身の回りに本があることは大事だと実感しています。

中学・高校の時期に、どうすれば身の回りに本がある生活にできるかを図書館として考えていきたいと思います。

委員：今朝、竜北中学の読み聞かせに初めて参加しました。中学生に10分間の読み聞かせということで、何を読めばよいか尋ねたところ「絵本でいいです」と言われ、ナンセンス系の本を読んできました。帰り際、送ってくれた生徒に「普段絵本は読む？」と聞いたら「読まないです」と言い、「何を読むの？」と聞くと「漫画を読みます」とのことでした。

他の委員からお話がありましたが、面白い本を紹介することは、こどもが「それは何だろう」と興味を持つ方法として有効だと思います。

私はビブリオバトルのボランティアもしています。自分が面白かった本を5分で紹介し、質疑応答を3分行い、どの本が一番読みたいかを決めて「チャンプ本」を選ぶゲーム的な取り組みです。安城市などではこどもの参加も多いと聞きます。クラスの中で友達同士が「これ面白いよ」と言い合う仕掛けを、学校側が意図して作るのも一つの方法だと思いました。

また、以前住んでいた宇都宮市の図書館では「うつのみやこども賞」という取り組みがあり、市内の本好きの小学校高学年が、図書館が選定した児童書を毎月数冊読み、選定会議で「一番面白かった本」を選び、年間のナンバーワン作品の作家を招いて講演会を行うというものがありました。

こどもが本を選ぶとき、表紙や挿絵などビジュアルのインパクトは強いです。POPやディスプレイなど、視覚的に「面白そう」と思える工夫も入口になります。友達や親が勧めた、テレビで観たといった動機でも、面白い本ならこどもは読みます。

今はいろいろなものが身近にありますが、その中で本を選んでもらうには、ビジュアルのインパクトや「いいよ」と言われたものへの反応なども含め、入口の作り方が大事だと感じました。

委員：はじめに宇野教育長から「困ったら図書館、何かあったら図書館」というお話があ

ったと思います。私も遅ればせながら、それを実践した経験をお話ししたいと思います。

きっかけは、知立市の郷土史研究会に昨年度から入れていただいたことです。牛田来迎寺を巡るという活動の中で、牛田の泉蔵寺に赤穂浪士の一人である吉田忠左衛門のお墓があることを知りました。私は聞きかじり程度でしたが、ガイドボランティアの方が寸劇も交えて、吉田忠左衛門がなぜそこに葬られたかなどを説明してくださり、とても勉強になりました。

しばらくして、知立市図書館の映画上映会「最後の忠臣蔵」に参加しました。

その際、上映会を担当していた職員に、知立市に吉田忠左衛門の墓がある話を知っているか聞いたところ、「レファレンスでやりました」と言われました。

レファレンスというのは、利用者の知りたいことに対して、職員が資料に基づき回答するものです。ネットで見るとはではなく、書籍・資料として提示できることを目的としています。

その後、自分でも調べる中で『義士祭に際し吉田忠左エ門夫妻を偲ぶ』という本に出会いました。吉田忠左衛門の生い立ちから墓に至るまでが詳細に書かれており、資料に出会えたことに感激しました。

他にもレファレンスで調べると、知立市史や、知立図書館編集の『こどもむけ知立の歴史を知ろう！っぴ』にも吉田忠左衛門の墓がなぜ知立市にあるのかが書かれています。図書館の資料を見ながら学べたことで、図書館の使命としてレファレンスが重要だということがよく分かりました。職員の皆さんには引き続き頑張りたいです。

また、知立市図書館のレファレンスはネットでも検索できますので、そうしたことも広めていけたらと思います。

委員：今年度、知立市教育研究会の学校図書館部会でも、中学生の読書量が非常に少なく本を読む子が少ないという課題が話題になりました。学校図書室もうまく活用できていない現状があります。

そこで、本校2年生の国語担当教員が、図書館と連携し、こどもたちの読書の幅を広げる授業を計画して実践しました。

今年から教科書に伊坂幸太郎さんの作品が入っているため、まず教科書の読み取りを行い、そこからキーワードを拾って関連図書を探します。そして自分が選んだ本を実際に読んだうえで友達に紹介したり、図書館で紹介する活動を行いました。

最終的には、タブレットを使って1分程度の紹介動画を作成し公開しました。

動画だけではなくPOPも作り、図書館にも置いていただきました。今回は1クラスの実践でしたが、動画やPOPを見て図書館で本を手にとった生徒もいたようです。

私自身あまり本を読む方ではありませんでしたが、動画を見て「面白そうだな」と思い、実際に買って読んだ本もあります。草の根的ではありますが、授業や委員会活動などで本に親しめる環境を地道に整える必要があると感じました。来年度も電子図書館も含め、中学生が利用できる仕掛けをいろいろと考えていきたいと思えます。

委員：私には大学生の娘と、大学を卒業したこどもがいます。小さい頃は本をよく読む子でした。小学校でも中学校でも読んでいたと思えます。ただ、高校生くらいになると忙しくなり、なかなか読まなくなりました。

一方で、娘に「最近本を読まなくなったね」と言うと「読んでいるよ」と、大学で借りた本やスマホでも読んでいるようです。小さいうちに本の楽しさを知っていると、また戻ってくることもあるのではないかと思えます。

私は小学校勤務ですが、小学校の読書指導や本に親しむ取り組みは、その子の人生にとって大事なことだと感じます。低学年のうちは図書室に本を借りに行く子が多く、休み時間ごとに借りて絵本を読む子もいます。ただ、中学年・高学年になるとハードルがあるように感じます。読みきかせてもらう本や自分でめくる絵本は読めるのですが、文字が多くなる3～4年生あたりに壁があり、どうすればそのハードルを越えられるかを模索しています。

先日「子ども読書活動推進計画」を事務局からいただき、バブコメも拝見しました。市民の学校への期待は大きく、学校も頑張らなければと思っています。

読書週間の取り組みとして、親子読書、ビブリオバトル、ストーリーテリング、POP、おみくじなど、いろいろ工夫していますが、学校評価アンケートでは読書活動の項目だけが伸び悩みました。背景として、読書の時間の確保が難しいことがあげられます。以前は朝読書の時間は毎日ありましたが、今は週1回です。来年度は週2回に増やせないかと思っています。工夫と努力を重ね、本の魅力を感じられるこどもを育てることが、市の図書館利用にもつながるよう、協力していきたいと思えます。

委員：私は子育てが終わり孫の代になりました。孫はよく図書館で本を借りており、読み聞かせをすることもあります。ひらがなを覚えるとそれが面白いようで、かるた取りもしています。同じかるたでは物足りないかと思え、百人一首も視覚から入る形で、少しずつやってみようと思いました。内容は難しいため、CDをかけて耳から聞かせることも考えています。

頭ごなしではなく、好きなことを好きなようにやらせることが大切だと思っています。

自分自身についても、電子図書を電車の中でも読めるように思っていた買ったが、最終的には単行本の方がよく、カバンには紙の本を入れて持ち歩くようになりました。図書館協議会に関わる以上、自分も本をたくさん読んでおきたいと思っています。

います。

孫の本もシリーズで揃えましたが、買って与えるだけでは難しく、やはり本人の興味が大事だと感じます。図書館の絵本や紙芝居も活用しながら、関わっていきたいです。

委員：電子図書と紙の本の話が出ましたが、一番の違いは、紙の本はどこまで読んだかが分かることです。電子だと分かりにくいと感じます。

会長：他にはよろしいですか。

委員：周知事項ですが、明日ビブリオバトルがあります。参加はどなたでも可能で、見学だけでも結構です。明日 14 時から図書館 1 階の展示室で行います。お子さんでも大丈夫ですので、興味があればぜひお越しください。

委員：先ほどの、吉田忠左衛門についてです。

吉田忠左衛門の浮世絵を歴史民俗資料館が所蔵しています。インターネット検索をする中で、新聞の記事を見て知りました。しばらく展示していないようなので、またいつか展示して PR していただけると嬉しいです。

図書館の端末検索だけでなく、インターネットで得た情報を手掛かりに資料を調べることで、理解が点から線、面へと広がると感じました。

会長：様々なご意見ありがとうございました。

その他に質問やご意見が無いようでしたら、これで令和 7 年度第 2 回知立市図書館協議会を終了します。

事務局：(説明)

6. 閉会